

こぎこ 小木の子 2

富士第二小学校
学校だより
平成29年 2月 15日



多くの命に支えられて今の自分があることを自覚して命いっぱい輝いてほしい！

1月は「行く」2月は「逃げる」3月は「去る」と言われるように、あっという間に時が過ぎ、いよいよ最後の最後のまとめの時期に入ってきました。

委員会引き継ぎ式、新1年生体験入学、富士山集会、地域の方に感謝する会、6年生に感謝する会など、様々な行事が計画されていますが、1年間のまとめをしっかりと、次年度への意欲が高まるよう、一日一日を大切に組み立てていきたいと思っております。

さて、2月の朝礼で子どもたちに、次のようなお話をしました。

皆さんは、なぜ食べる前に「いただきます」って言うか知っていますか。先生は、次の二つの意味があると思います。一つ目は、「生き物の命をいただく」ということです。

植物は、生きていくための栄養をその場所で吸収して、さらに自分の力で作り出すことができます。ところが、私たち人間や動物にはそれができません。だから、どうしても他の生き物の命を奪って「食べる」必要があります。動物だって植物だって、どんな生き物だって、自分の命の限り精いっぱい生き続けたい、そう願って生きているんだと思います。しかし、私たち人間は、そんな生き物の命をいただかなければ、一時も生きていくことができない悲しい宿命を背負っています。

二つ目は「作ってくれた人の命をいただく」ということです。

命とは、時間です。今朝、みなさんのお母さんは、30分かけて朝ご飯を作りました。今日の夕食、お母さんは、1時間かけて夕ご飯を作ります。その朝ご飯にはお母さんの30分ぶんの命、夕ご飯には1時間ぶんの命が込められているのです。皆さんが生まれてから今日までの間、お母さん、お父さんは、自分の命の時間をどれだけ使って食べさせてきてくれたでしょう。食べ物を粗末にすることは、作ってくれた人の命を粗末にすることです。

ところが、どうでしょう。日本では、1年間の食べ残しが、何と3300万人分の栄養をまかなえるくらいになるそうです。これは、カナダやオーストラリアの人口に匹敵します。

私たちは奪われた命の意味も深く考えないで、毎日の食事をしています。動物は、自分の食べ物を自分で獲って生きています。しかし、人間だけが、自分で直接手を汚すこともなく、お店でお金を払ったりして毎日の食事を食べているのです。

みなさんは、食べ物をいただくとき、そこに尊い命があったことを忘れずに、その命を敬い、「いただきます」「ごちそうさま」と感謝の言葉をかけてあげられる人になってほしいと思います。

食べ物になった命は、みんなの体に姿を変えて、あなたの中で生き続けます。そして、体の中からあなたを精一杯応援してくれています。みんなができる最高の恩返しは、たくさんの生き物たちから命のバトンを託されたあなたの命を、いっぱい輝かせることです。

今の当たり前が、多くの命に支えられている有り難いことであることに感謝して、子どもたちの大切な命が、きらきら輝くよう、今後ともご理解ご協力をお願いいたします。

今こそ出発点

京都大仙院 尾関 宗園

人生とは 毎日が訓練である
私自身の 訓練の場である
失敗もできる 訓練の場である
生きているを喜ぶ 訓練の場である

今 この幸せを喜ぶことなく
いつ どこで幸せになれるのか
この喜びをもとに 全力で進めよう
私自身の将来は 今 この瞬間 ここにある
今 ここで 頑張らずに いつ頑張る

平成28年度も授業日数残り23日です。一日一日を大切に大切に過ごしてほしいと思っております。

子育てポイント

**子どもは何気ない親の言葉を受け止めて育つ
子どもは親の背中を見て育つ**

小学校1年生の始業式の朝、母は「いってらっしゃい」より先に、「ランドセルを背負えない子がいたら助けてあげなさい」と言った。

下校時に、サヨナラをするとき、母に言われたことを思い出して、周りを見回したのを覚えている。

母の言葉は、自分のことしか見えなくなったり、心の狭い人間になりそうになったりしたとき、心のどこかで静かに響き続けてきた。

卒業式を迎えた夜、私は、「心の晴れ着」をくれた母に遠く離れた東京から「ありがとう」と叫びたい気持ちでいっぱいになった。

朝日新聞投書欄より抜粋

